八幡製鐵所の騷擾は 暴動として斷然たる處置を執らん

正當なる同盟罷業ではない 事件は內務省の所管に移つた

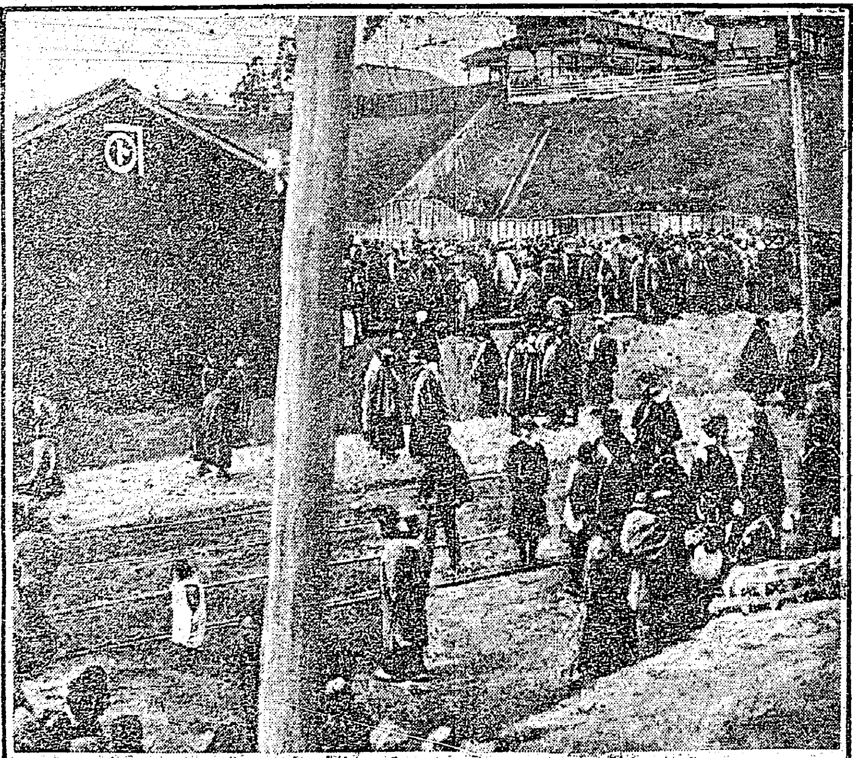
煽動者は悉く檢擧する

八幡製鐵所大罷業の險惡なる形勢に對し農商務當局は果して如何なる處置をなすや其善後策如何、貴族院大臣室に山本農相を訪へば「今委員會で多忙を極めて居る其事なら小坂秘書官がよう知つて居るから聞いてくれ」と言ふ卽ち小坂秘書官は代つて語る

「製鐵所職工等の過の要求は豫算の關係上直に容れてくれないとしても當局としては十分考慮中である、然るに今回は何等要求する所なくして當局の不誠意云々を楯に取つて暴動を敢行した、當局者は**今や之に對し嚴重なる取締をなすより外に途はない** 純然たる同盟罷業なれば當局も敬意を表して考慮するのであるが**暴動に對しては取締あるのみ** 熔鑛爐の給風を止め瓦石を投ずるに至りては最早何等考ふる餘地はない、是れ純然たる暴動ではないか さうして斯うなれば事件は內務省の所管に入るから今や內務當局に萬事を託して斷然たる處置を執つて貰ふことにした **恐らく軍隊も動くであらう** 併しまだそれに就ては報告に接して居ない、白仁長官も急遽歸任されたから其意を體して適當な處置に出づるであらう、一口に八時間勞働と云ふも製鐵事業の如きは其性質上世界何れの地でもやつて居る所はない 熔鑛爐の如きは終日終夜火を絕やすことは出來ない、卽ち時間制限は不可能である

それより話頭を轉じて**罷工者の處分問題**に移る「**暴動の主謀と認むべき者は二百名はある 是は直に處分する 其他附和雷同者をも悉く檢擧する**かゝる見地からして**在京某勞働團體本部も煽動と認むべき形跡があるやうで**あるから當局は十分取締ることゝ思ふ斯う云ふことは決して好ましくはないが今更詮方ないと評を結ぶ更に、院內政府委員室に於て**川村警保局長**を訪へば

「如何にも問題は自分の所管に移つて來たそこで今朝(二十五日)天屋事務官を現場に派遣して狀況調査を急がせる事にした何れ白仁長官と打合せて適當の取締方法を講ずることであらう內務省としては無論斷然たる處置を執るけれども斯うした問題は假令暴動であつても事件の性質上**當の農商務省に於ても今少し考へて貰ひたい**ものだ早く適宜の處置を執つて貰ひたい自分は切にそれを望んで居る」と兩者の談話に統一を缺けり(東京電話)



八幡製鐵所購買會前廣場に集合した職工(廿四日朝撮影)

九箇條の希望條件と 煑切らぬ押問答

職工代表と當局の會見 更に再會を約して分る

職工側より選擧されたる勞友會長代理東京毎日新聞記者加藤勘十氏及び淺原鑛次郎氏介添役として交涉委員十名二十四日午後八時製鐵所會議室に於て中川次長に面會を求めたれば製鐵所側は中川次長、田島庶務部長、竹下工場課長、遠藤官房主事、山縣保健課長、新納小倉憲兵隊長、石橋小倉警察署長立會の上面會せり

委員は口を開きて『吾々は普通職工の代表者なり』と前提し『過日勞友會より提出したる五箇條の條件を**卽時斷行して貰ひ度し然らざれば**熱狂せる職工を緩和する事覺束なし』と說述したれば中川次長は

『曩に提出されたる條件に就ては當時印刷物を配付すると同時に各工場長をして論達せしめたる通り臨時手當を本給に引直すことは既に豫算に計上して議會に提出したれば議會の協贊を得れば直に實行せらるゝことゝなり居れり、又時間短縮は官設工場申合せ會と云ふものありて目下是が調査中なれば單り製鐵所のみ先んじて之を實施するは不可能なり、又住宅料に就ては現在成るべく多くの官舍を建築して諸君の希望に添ふべし』と述べ尙押問答の後交涉委員は五箇條に對する追窮を一先づ打切り更に工場全般に亘る全職工の意思にて希望條件九箇條ありとて之を提示し中川次長の回答を求めたり卽ち

第一、各工場伍長組長を職工の互選に依り現業監督員に於て其の中より幾人かを任命する事

右に對する中川次長の答『自分の意見を述ぶるは困難なれば聞き置くに止むべし』

第二、共濟會の評議員は會員の選擧に依られ度き事

次長『御希望に添ふやう努むべし』

第三、一箇年一回の賞與を役員と同樣年二回にせられ度き事

次長『聞き置くに止むべし』

第四、三大節の公暇日は一日分の給料を支給せられ度き事

次長『聞き置くに止むべし』

第五、通門の際身體檢查を廢止せられ度き事、少くとも職工の人格を重んじて頂き度し

次長『希望として聞き置く』

第六、職夫の早出殘業步合增の一部を相當增加せられ度き事

次長『聞き置…

第七、指定…より物品…事

次長『大藏…ざれば實行…くに止むべ…

第八、指定…病は病院…

田島庶務部…ことになり…於て聞き置か…

第九、解職…て六箇…、雇傭せ…を廢止…

以上の希望…後中川次長…後十一時半…幡電話)

熔鑛爐の煙

廿五日の入所者は 僅かに五百…

二十五日朝入所したる主要工場勤務の職…百十八名、請負人夫五十二名計五百八十…職工人夫等は休業の事とて市中を徘徊し…り本町邊の人出は夥しく二十四日危險…る市內の飲食店其他の商店も幾分形勢の…て店を開き祭日の如き賑ひなり、されど尙…り**作業開始は今の所目**…して製鐵所主腦機關たる熔鑛爐は前回の…**一、第四、第五の三基**…**る後直に各部を密閉**…**止**し居り三基約五十噸宛の蒸汽を流出…騷中なるが熱狂せる職工は**動もすれ**…**を襲はんとせる爲**警官…力警戒中なり(八幡電話)

續々檢擧 首謀者に…

八幡警察署にては事件再發と共に直に檢擧に着手し二十四日夜迄に製鐵所鑄物工場大龍勇(二十)同阪本小助(二十二)同職清丸(二十七)新設版工場澤田勝次(二十七)を暴行罪として、第一鑄型工場加藤義男(二十三)及び首謀者として長…して堺陳吉…十五日午前…幹事森重皆一…玉の四人を…(八幡電話)

長官以下に辭職を勸告

勞友會の團結

東上せる勞友會幹事談

曩の罷工に於て白仁長官の回答及び態度に慊らず再び罷工を起せる八幡製鐵所の眞相を政府及び議會に陳情の爲め急遽東上の途に就きし日本勞友會幹事淺原鑛三郎氏を二十五日朝列車中に訪へば「再び罷工を行つた理由は曩の要求が容れられなかつた爲であつて決して當局者の云ふ樣に理由なしに行つて居るのではありません、而して今度は是非あの鈍感な**白仁長官と、職工の積立金及び自ら會長であ**る協濟會基本金から十五萬五千圓と云ふ大金を八幡市に貸與しながらこれを知らなかつたと云ふ樣な不誠實な中川次長及び田島庶務課長に辭職を勸告しこれを實行せしめなければ何時迄も決して罷めぬと云ふ堅い決心を持つて秩序正しく行つて居ります、二十五日の新聞で見ると當局は暴動として報告して居る樣ですが我々は決して…るやうな…せん尤も…壞したと云…多數のこと…位のことは…は始めから…て貰つて先…運夜各所に…たが、今度…八幡市內の…館は警察署…對して會場…した、それ…してボイコ…ました、其…の大會…して制…雇した…

紐育株況

海外通

…十八日のスチール株は九十八弗に持合へり

劇落氣なく四時半頃に於ては中品二十平四、五 六月物六百六十六七圓、七、八、九月物六百四十一、二圓處を唱へ正午と殆ど變らず十、十一、十二月物六百二十一、二圓見當に持合へり

…井二十枚 ▲三限(賣)岩正六十、伊藤秀二十枚(買)島徐二十五、中村、中八二十枚 ▲四限(賣)岩正八十五、伊藤秀七十五、八木惣、川畑三十五、西川二十五、…

…市川、島三十、淺、貴志、小泉、前長二十五、服部二十枚 ▲六限(賣)川畑五十五、淺五十、島澤四十五、山田、湯野三十五、尾本三十、野口二十五枚(買)小原九十、伊藤秀…

後場の手口

…井、淺、小原二十枚(買)井上百五、伊藤秀、堀井七十五、…原七十、湯野、谷和、前畜、木下三十、國府、淺二十五、松井、岩正、松村二十枚

…